２０２１年３月期

決算説明資料

（中期経営計画含む）

2021年6月24日

東証1部:　6333

株式会社 帝国電機製作所

目次

1. ２０２１年３月期決算
2. ２０２２年３月期業績見通し
3. 中期経営計画（2022.3～2024.3）
4. 環境経営への取組み
5. 参考資料

１．２０２１年３月期決算

株式会社 帝国電機製作所

２０２１年３月期決算概要

株式会社 帝国電機製作所

（百万円）	2020年3月期	構成比（%）	2021年3月期	構成比（%）	増減	増減率（%）
売上高	**23,576**	100.0	**19,910**	100.0	▲3,666	▲15.5
売上原価	**14,138**	60.0	**12,422**	62.4	▲1,716	▲12.1
売上総利益	**9,437**	40.0	**7,487**	37.6	▲1,949	▲20.7
販売費及び一般管理費	**5,686**	24.1	**5,224**	26.2	▲461	▲8.1
営業利益	**3,750**	15.9	**2,262**	11.4	▲1487	▲39.7
経常利益	**3,829**	16.2	**2,513**	12.6	▲1,315	▲34.4
親会社株主に帰属する当期純利益	**3,155**	13.4	**2,324**	11.7	▲830	▲26.3

決算（損益計算書）のポイント

株式会社 帝国電機製作所

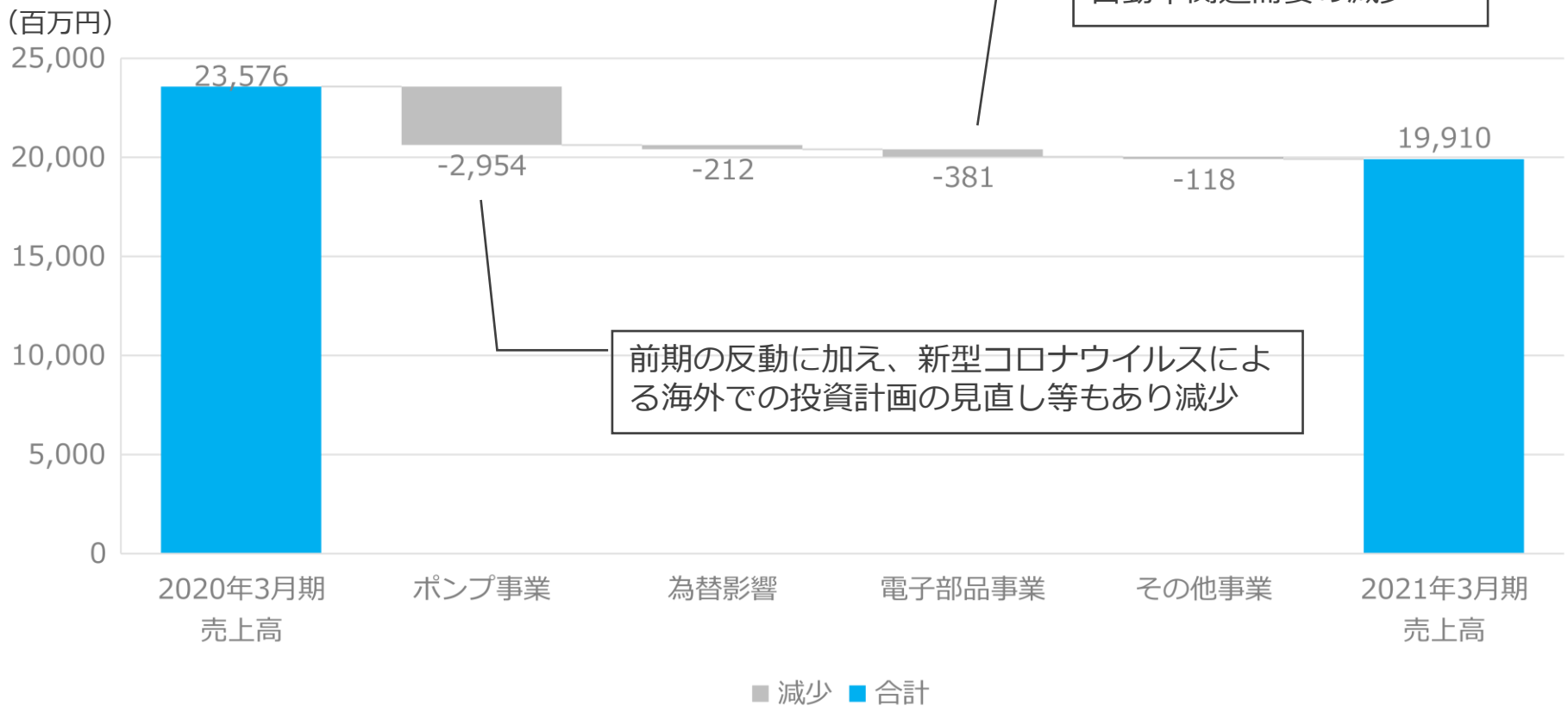
減収減益

売上高	売上高減少の主な要因 ・前期売上好調の反動減に加え、新型コロナウイルスの影響に伴う経済活動の減速により、特に海外市場において、主要顧客であるケミカル業界の新規設備投資の延期・中止が相次いだこと ・電子部品事業は、新型コロナウイルスの影響に伴う経済活動の減速により、自動車関連業界の需要が落ち込んだこと。
営業利益	営業利益減少の主な要因 ・売上減少による粗利率低下 （中国現地法人の修理子会社清算に伴う未払税金（源泉税、増値税分）取崩しによるプラス要因＝391百万円）
親会社株主に帰属する当期純利益	親会社株主に帰属する当期純利益減少の主な要因 ・売上減少による利益率低下 （中国現地法人の修理子会社清算に伴う未払税金（企業所得税分）取崩しによるプラス要因＝469百万円）

売上高増減分析

株式会社 帝国電機製作所

期中平均レート推移	2020年3月期	2021年3月期
ＵＳドル	109.0円	106.8円
人民元	15.8円	15.5円
ユーロ	122.0円	121.9円

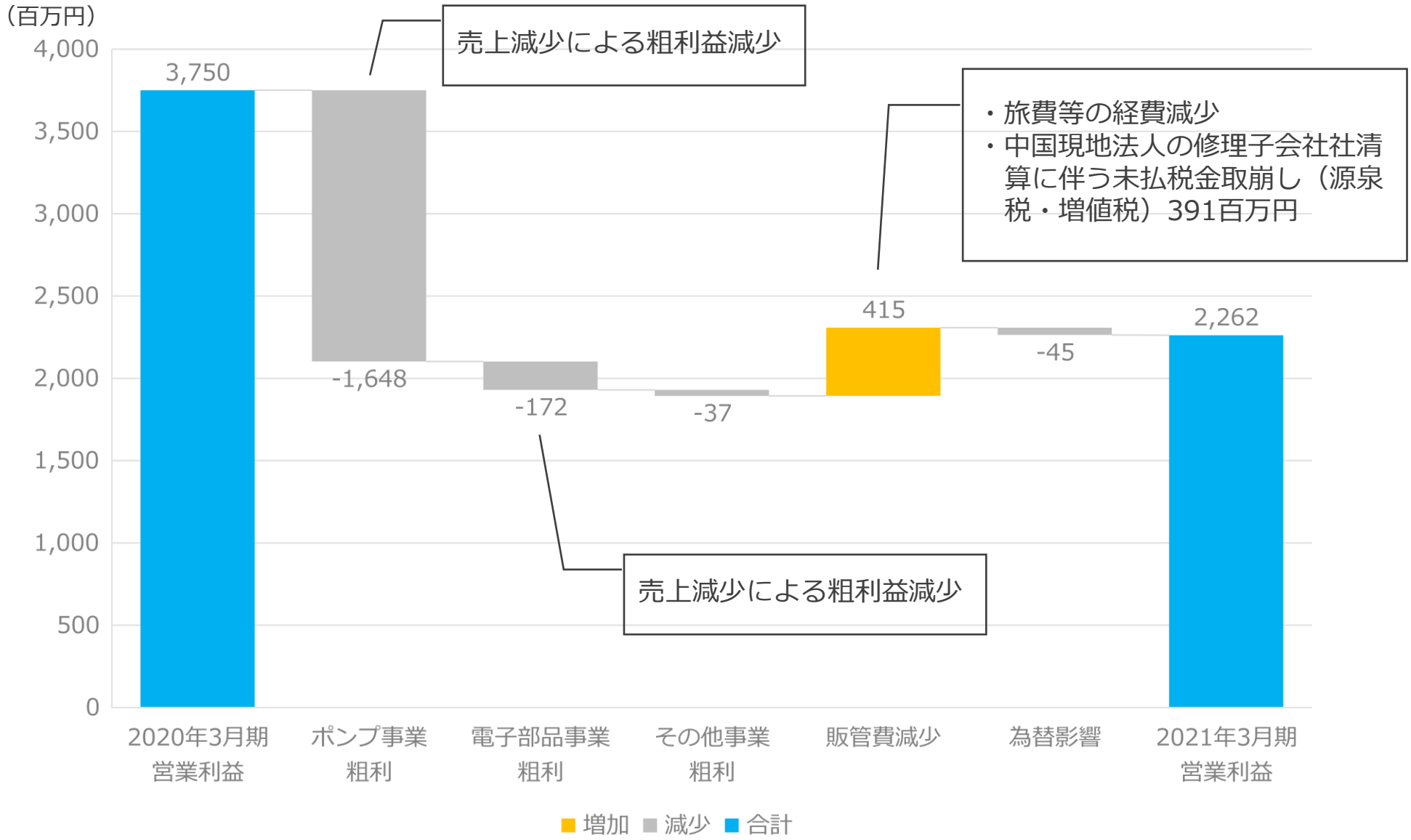


新型コロナの影響による自動車関連需要の減少

前期の反動に加え、新型コロナウイルスによる海外での投資計画の見直し等もあり減少

営業利益増減分析

株式会社 帝国電機製作所



種類別セグメント（売上高・営業利益）

株式会社 帝国電機製作所

	(百万円)	2020年3月期	2021年3月期	増減	増減率
ポンプ事業	売上高	21,061	**17,895**	▲3,166	▲15.0%
	営業利益 (営業利益率)	3,542 (16.8%)	**2,237** **(12.5%)**	▲1,305	▲36.8% (▲4.3%)
電子部品事業	売上高	1,965	**1,584**	▲381	▲19.4%
	営業利益 (営業利益率)	106 (5.4%)	**▲41** **(－%)**	▲147	－ (—)
その他	売上高	548	**430**	▲118	▲21.5%
	営業利益 (営業利益率)	101 (18.5%)	**67** **(15.6%)**	▲34	▲34.1% (▲2.9%)
合計	売上高	23,576	**19,910**	▲3,666	▲15.6
	営業利益 (営業利益率)	3,750 (15.9%)	**2,262** **(11.4%)**	▲1,487	▲39.7% (▲4.5%)

ポンプ事業 所在地別売上高

株式会社 帝国電機製作所

- 日　本‥海外ケミカル市場において、新規設備投資の延期・中止が相次いだことから輸出が減少し減収。
  国内向けも主力のケミカル向けが第3四半期以降スローダウン
- 欧　米‥米国は主力のケミカル向けがケミカル業界の新規設備投資の延期・中止により減少し減収
- アジア‥中国は、第2四半期以降、ケミカル向けを中心に回復傾向にあるものの、前期好調であった反動減
  や第1四半期に新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けたこと等により減収

(百万円)		2020年3月期	**2021年3月期**	増減	増減率
日本	売上高	7,506	**6,956**	▲549	▲7.3%
欧米	売上高	5,139	**4,460**	▲678	▲13.2%
アジア	売上高	8,415	**6,477**	▲1,938	▲23.0%
合計		21,061	**17,895**	▲3,166	▲15.0%

※販売元が基準（外部顧客に対する売上でセグメント間は除く）

ポンプ事業 製品種類別売上高

株式会社 帝国電機製作所

●主にケミカル機器用が減少、その他ポンプ（主に半導体向け）が増加

（百万円）	2020年3月期	比率（%）	2021年3月期	比率（%）	増減	増減率（%）
ケミカル機器用	11,984	56.9	**9,712**	54.3	▲2,272	▲19.0
冷凍機・空調機器用	1,954	9.3	**1,800**	10.1	▲154	▲7.9
電力用（車両用）	657	3.1	**438**	2.5	▲219	▲33.4
電力用（地上用）	591	2.8	**563**	3.1	▲27	▲4.7
定量注入機器	415	2.0	**436**	2.4	+20	+4.8
その他ポンプ	115	0.5	**214**	1.2	+99	+86.9
メンテナンス	5,342	25.4	**4,729**	26.4	▲612	▲11.5
合計	21,061	100.0	**17,895**	100.0	▲3,166	▲15.0

種類別受注高・受注残高

株式会社 帝国電機製作所

●受注は新型コロナウイルス等の影響により減少

(百万円)	2020年3月期		**2021年3月期**		増減	
	受注高	受注残高	**受注高**	**受注残高**	受注高	受注残高
ポンプ事業	19,775	8,301	**17,295**	**7,701**	▲2,480	▲600
電子部品事業	1,928	111	**1,637**	**164**	▲290	+53
その他	530	88	**486**	**144**	▲43	+55
合計	22,234	8,501	**19,418**	**8,010**	▲2,815	▲491

貸借対照表のポイント

株式会社 帝国電機製作所

資産の部	2021年3月期	前期末増減
流動資産	**24,884**	＋1,153
現預金	**12,576**	＋2,060
受取手形・売掛金	**7,386**	▲957
製品・仕掛品 原材料・貯蔵品	**4,306**	▲590
固定資産	**10,746**	▲299
有形固定資産	**8,367**	▲338
無形固定資産	**379**	▲184
投資その他の資産	**1,999**	＋224
資産合計	**35,631**	＋854

負債の部	2021年3月期	前期末増減 百万円
流動負債	**5,716**	▲1,109
支払手形・ 買掛金	**1,869**	▲262
短期借入金	**320**	▲131
未払法人税等（※）	**298**	▲646
その他（※）	**3,229**	▲69
固定負債	**1,080**	＋179
純資産	**28,834**	＋1,783
(内自己株式)	**(▲1,000)**	(▲73)
負債・純資産合計	**35,631**	＋854

※ 中国子会社の修理子会社２社清算に係る未払税金取崩し
未払法人税等：▲582百万円
その他（うち未払金より）：▲391百万円

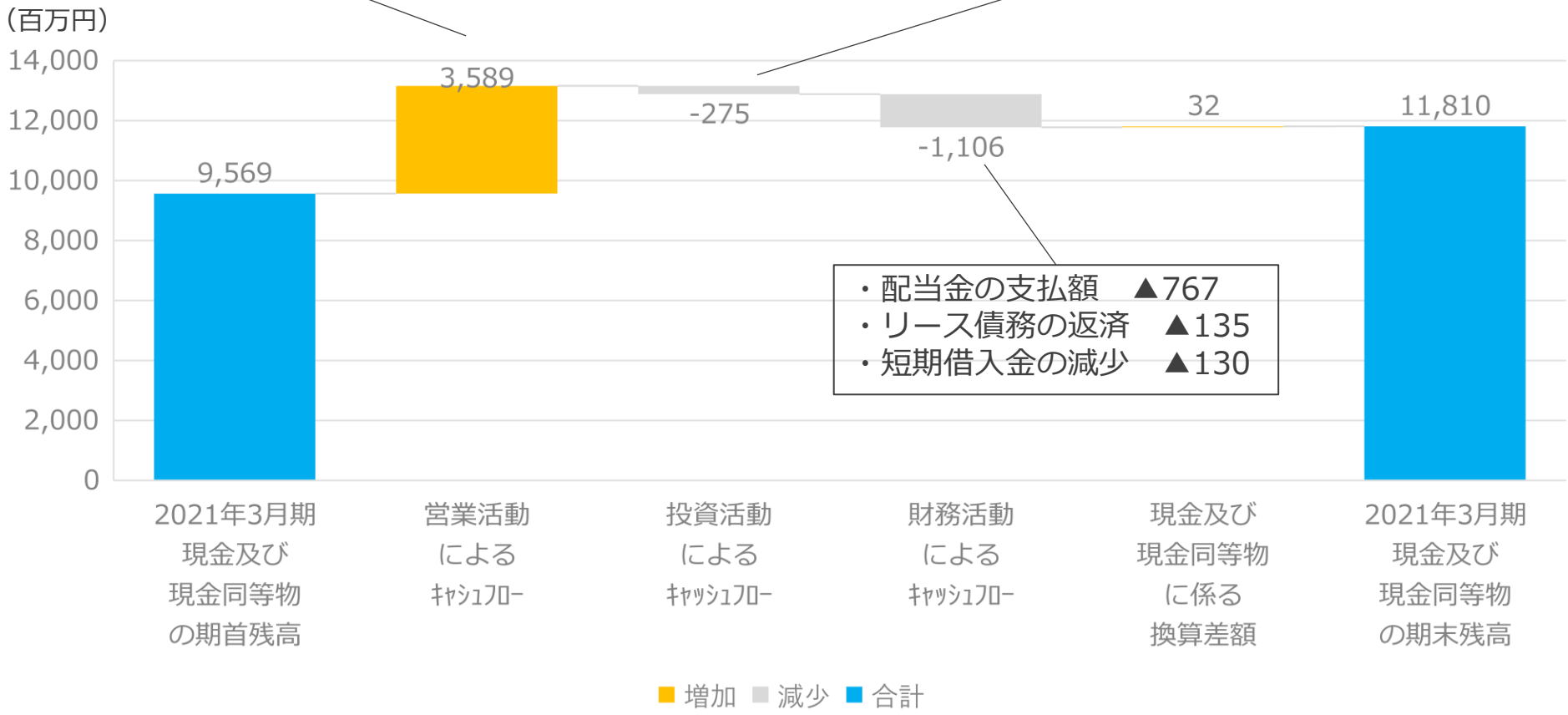
キャッシュフロー分析

株式会社 帝国電機製作所

●現金・同等物期末残高は2,240百万円増加

・税金等調整前当期純利益　+2,493
・減価償却費　+978
・売上債権の減少　+961
・その他の流動資産の増加　▲721

・定期預金の増減による収入　+191
・投資有価証券の売却による収入　+79
・有形固定資産の取得　▲492



・配当金の支払額　▲767
・リース債務の返済　▲135
・短期借入金の減少　▲130

２．２０２２年３月期業績見通し

株式会社 帝国電機製作所

業績見通しの前提条件

株式会社 帝国電機製作所

セグメント別		
ポンプ事業	日本	・前期の受注減少により期首受注残が低水準であることに加え、主要顧客であるケミカル業界の業績回復に伴う設備投資が下期以降に本格回復するものと見られるが、売上につながるのは来期以降になる見込みであり今期売上は微減見込み ・利益は、技術開発センター移転費用計上、防爆取得費用等の研究開発費用の増加等により減益見込み ・不適切な性能試験に係る影響は考慮していない
	欧米	・需要回復の兆しは見えつつあるものの、期首の受注残が低水準であることに加え、主要顧客であるケミカル業界の設備投資の本格的な回復が下期以降になると見込んでおり、減収減益を見込む
	アジア	・中国経済の回復により主要顧客であるケミカル業界の新規設備投資も回復してきていることから、中国が牽引し増収増益を見込む
電子部品事業		・半導体不足による自動車業界の生産調整等の懸念はあるが、自動車関連需要は回復傾向にあることから増収増益を見込む

※ インドを除く海外現地法人の決算期は12月（インドは3月）

計画為替レート(期中平均)	1US＄=107.0円、1€=128.0円、1元=16.5円、1KRW=0.09円、1INR=1.5円 （前期実績レート:・ 1US＄=106.8円、1€=121.9円、1元=15.5円、1KRW=0.09円、1INR=1.4円）

今期計画（業績見通し）

株式会社 帝国電機製作所

- 売上は、ポンプ事業において、中国市場の回復を主たる要因として増収見込み
- 利益は、前期利益を押し上げた特殊要因（※）の剥落や日本における技術開発センター移転、研究開発費の増加、中国における人件費増等により減益見込み

（百万円）	2021年3月期（実績）	構成比（%）	**2022年3月期（計画）**	構成比（%）	増減	前期比（%）
売上高	19,910	100	**20,900**	100	+990	+5.0
売上原価	12,422	62.4	**12,960**	62.0	+538	+4.3
売上総利益	7,487	37.6	**7,940**	38.0	+453	+6.1
販売費及び一般管理費	5,224	26.2	**6,260**	30.0	+1,036	+19.8
営業利益	2,262	11.4	**1,680**	8.0	▲582	▲25.7
経常利益	2,513	12.6	**1,830**	8.8	▲683	▲27.2
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,324	11.7	**1,280**	6.1	▲1,044	▲44.9

※ 前期特殊要因：前期は、中国現地法人の修理子会社２社清算により、過年度に計上した未払税金の取崩しが発生し利益を押し上げた。（販管費に391百万円戻入、法人税等に469百万円戻入）

種類別セグメント見通し（売上高・営業利益）

株式会社 帝国電機製作所

- 「その他」においてブレーキモータが生産終了となるため売上減少

(百万円)		2021年3月期 (実績)	**2022年3月期 (予想)**	増減	増減率
ポンプ事業	売上高	17,895	19,000	+1,105	+6.2%
	営業利益 (営業利益率)	2,237 (12.5%)	1,590 (8.4%)	▲647	▲28.9% (▲4.1%)
電子部品事業	売上高	1,584	1,620	+36	+2.3%
	営業利益 (営業利益率)	▲41 (－%)	70 (4.3%)	+111	— (—)
その他	売上高	430	280	▲150	▲34.9%
	営業利益 (営業利益率)	67 (15.6%)	20 (7.1%)	▲47	▲70.1% (▲8.5%)
合計	売上高	19,910	20,900	+990	+5.0%
	営業利益 (営業利益率)	2,262 (11.4%)	1,680 (8.0%)	▲582	▲25.7% (▲3.4%)

ポンプ事業 所在地別売上高見通し

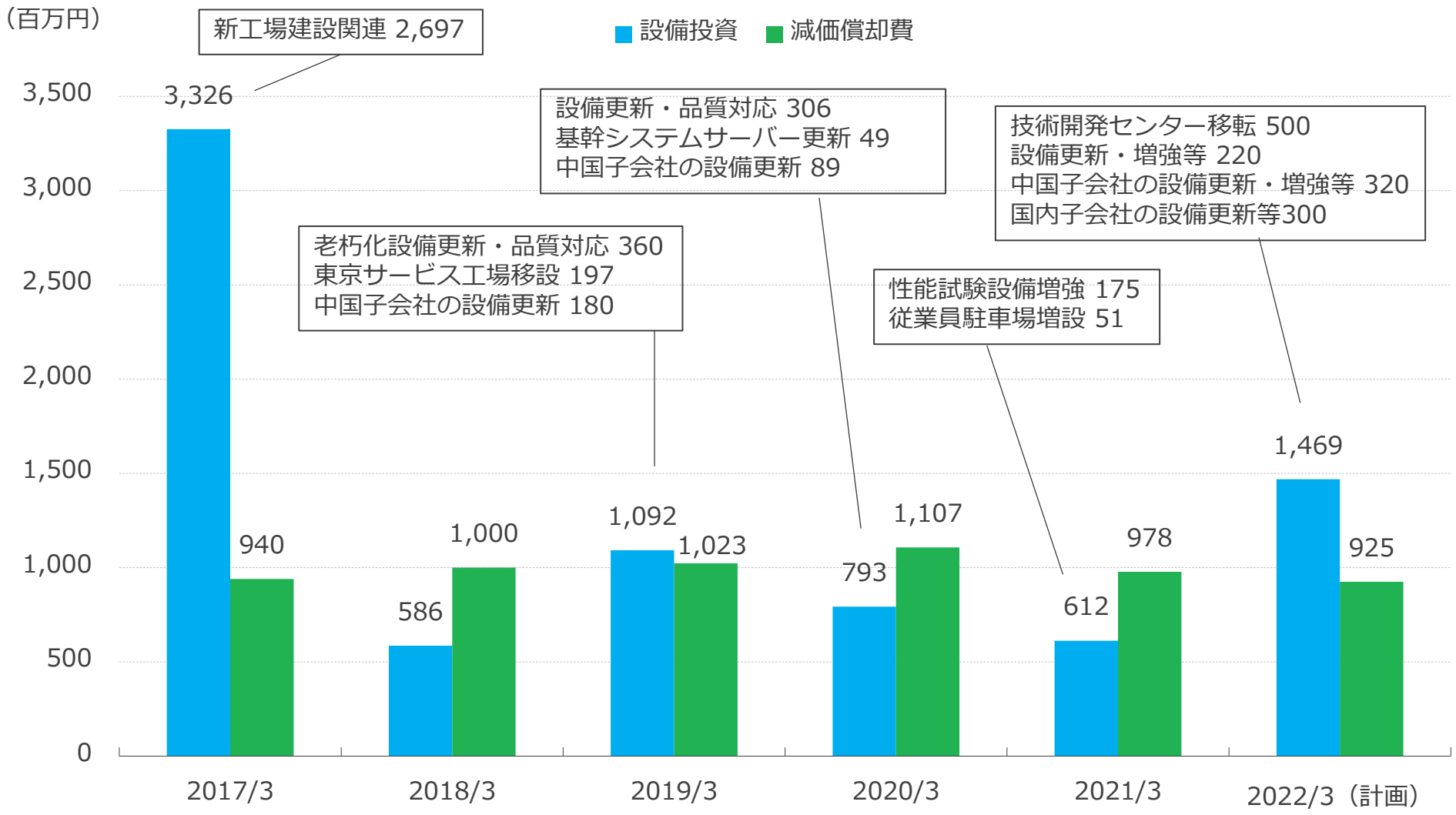
株式会社 帝国電機製作所

(百万円)		2021年3月期（実績）	2022年3月期（予想）	増減	増減率
日本	売上高	6,956	6,580	▲376	▲5.4%
欧米	売上高	4,460	4,230	▲230	▲5.2%
アジア	売上高	6,477	8,190	+1,713	+26.4%
合計	売上高	17,895	19,000	+1,105	+6.2%

※販売元が基準（外部顧客に対する売上でセグメント間は除く）

設備投資・減価償却費計画

株式会社 帝国電機製作所



株主還元策

株式会社 帝国電機製作所

基本方針

株主に対する利益還元は経営の重要課題のひとつ。
拡大する事業機会を迅速・確実に捉える為に必要となる株主資本の水準を保持。

配当　安定配当に留意しつつ、連結配当性向３０％以上を目標

自己株式取得　市場環境や資本効率等を勘案し、必要に応じて検討

	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期（予定）
年間配当金	36円	36円	36円
配当性向(連結)	※22.5%	※30.5%	**54.1%**

※　2019年12月に総額117百万円の自己株式取得
※　2021年3月8日に8億円（80万株）上限の自己株式取得を発表

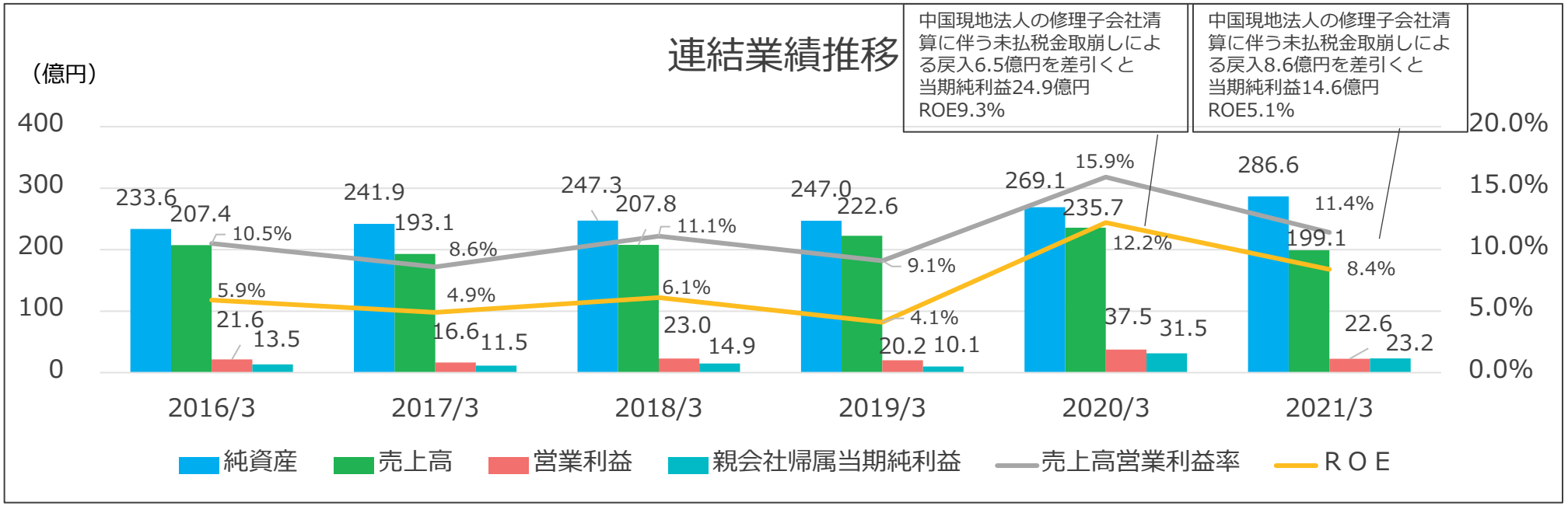
3．中期経営計画

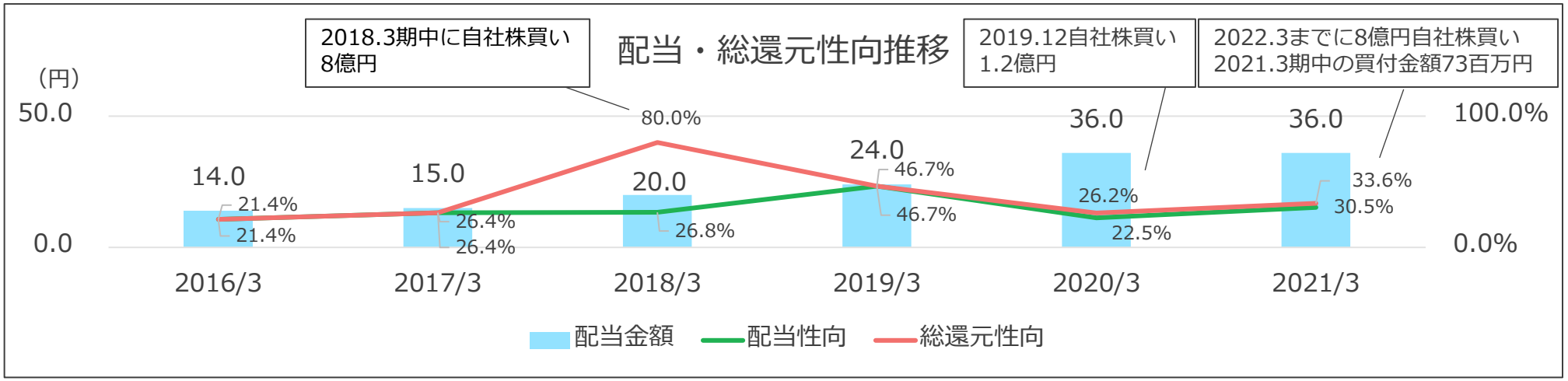
（2022年3月期～2024年3月期）

株式会社 帝国電機製作所

過去業績の推移

株式会社 帝国電機製作所





中期経営計画 ビジョンと目標

株式会社 帝国電機製作所

中期ビジョン

- すべてのステークホルダーの満足度向上

中期経営計画目標

- 売上245億円、営業利益32億円、ROE8%
- ESGの積極的推進

計数計画及び設備投資計画

株式会社 帝国電機製作所

1．計数計画

（百万円）

	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期
受注	19,418	21,900	23,450	25,600
売上	19,910	20,900	22,190	24,500
営業利益	2,262	1,680	2,280	3,200
営業利益率（%）	11.4	8.0	10.3	13.1
ROE（%）	8.4	–	–	8.0

※ 2021年3月期は、大連修理子会社清算に伴う未払税金の取崩しによる戻入8.6億円を差引くとROE5.1%

2．主な設備投資計画

（百万円）

	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期
金額	1,469	1,667	630
内容	・技術開発センター移転 ・設備更新・増強等	・子会社業務見直しに伴う設備投資 ・設備更新・増強等	・設備更新・増強等

すべてのステークホルダーの満足度向上のために

株式会社 帝国電機製作所

1．株主

- 資本効率の改善
- ガバナンス強化

2．顧客

- One to One マーケティングによる顧客満足度向上
- 潜在ニーズの発掘（顕在化していない顧客ニーズの発掘とソリューション提供）
- サービス事業強化

3．調達先

- 強固なサプライチェーン構築

4．従業員

- 従業員満足度向上によるモチベーションアップ
- ダイバーシティ推進による人材活性化

5．地域社会

- 社会貢献活動の推進
- 環境問題への対応（CO_2削減）

基本方針

株式会社 帝国電機製作所

チームビルディング

- 帝国電機製作所グループとしてのチーム力を高め、顧客ニーズへの対応力を強化し、顧客満足度を高めていく。

収益基盤の拡大

- マーケティングを強化し、顧客の顕在ニーズに的確に対応していくとともに、潜在ニーズを発掘していく。
- サービス事業を強化し安定した収益基盤の確立を目指す。

業務改革

- 業務内容、業務フローを機動的に見直すとともに、デジタル技術を活用し業務効率化を図っていく。
- 生産性を向上し納期短縮に取組むことで資本効率を向上させる。

人材育成

- 多様な人材の採用、育成を計画的に推進し、積極的に「人材に投資」していく。
- 優秀な人材には、積極的に活躍の場を提供する等、能力に応じたメリハリのある評価を行う。
- ダイバーシティを推進し組織を活性化していく。
- 従業員の健康に気を配り、個々の能力が発揮できる自由闊達で働きやすい職場づくりを推進する。

ESGの積極的推進

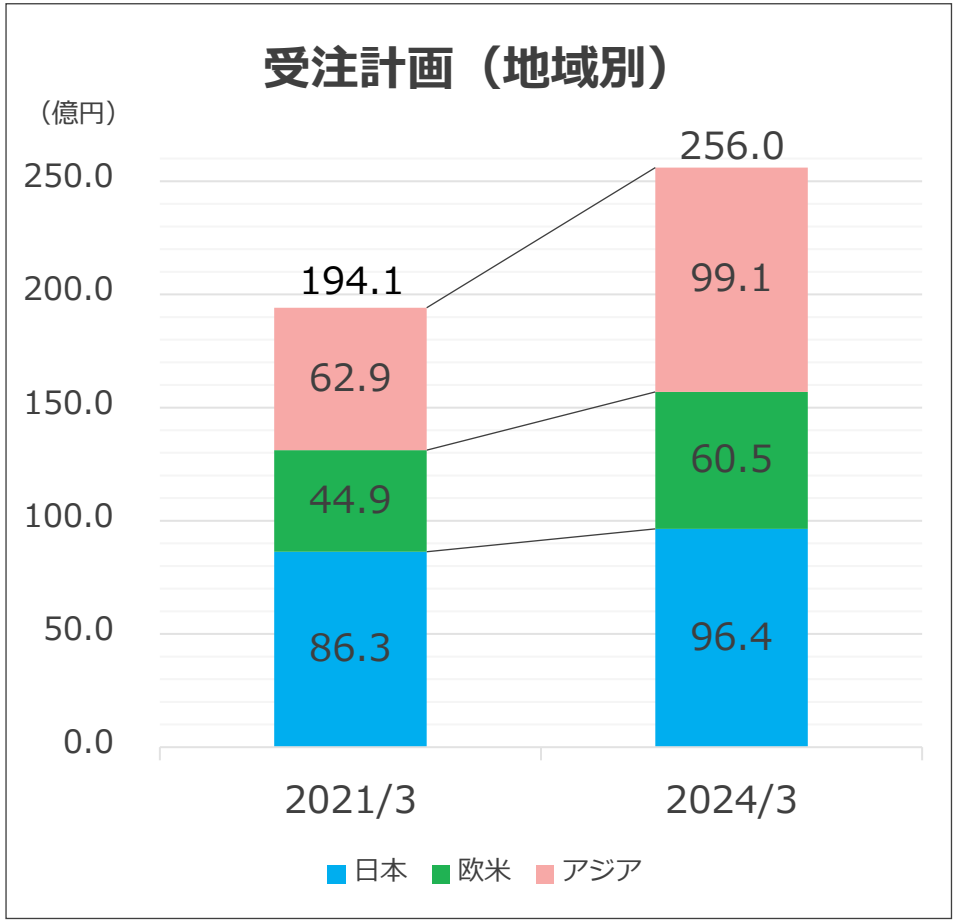
- 全社をあげてコンプライアンスを徹底する。
- 品質管理体制強化
- ESGを新たなビジネスチャンスと捉え積極的に推進していく。

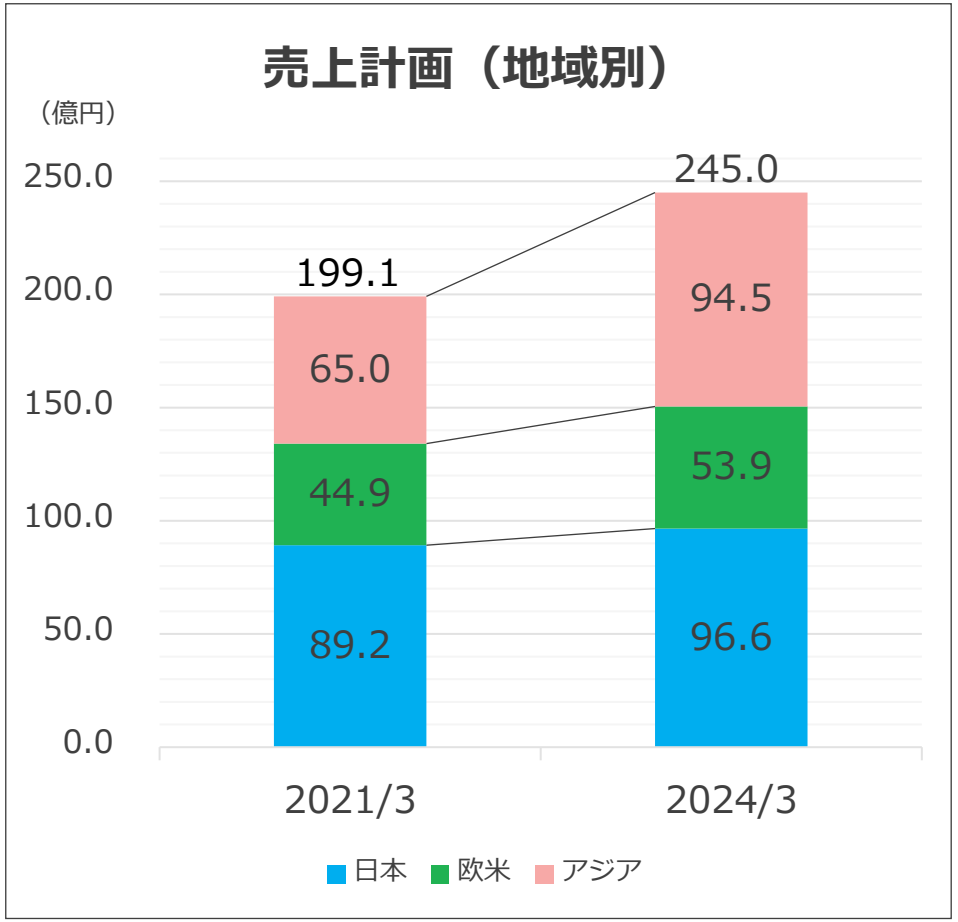
地域別取組み

地域	主な取組み内容
日本	・One to One マーケティングによる顧客との関係深化 ・デジタル技術活用による生産性向上 ・サービス事業強化
欧米	・シールポンプからのリプレース推進 ・ケミカル向けポンプの一部機種ノックダウン生産 ・定量ポンプの販売強化 ・マーケティング強化 ・サービス事業強化
アジア	・マーケティング強化 ・中国子会社の生産ボトルネック解消 ・サービス事業強化

受注・売上計画

株式会社 帝国電機製作所





ROE8%達成に向けて

株式会社 帝国電機製作所

項目	主な取組み内容
収益性向上	・サービス事業強化 ・顧客満足度向上による差別化
効率性向上	・在庫の適正化 ・生産性向上による納期短縮 ・国内子会社の役割分担の見直し
資本政策	・安定配当に留意しつつ、連結配当性向30%以上を目標 ・自社株買いは市場環境や資本効率等を勘案し、必要に応じて検討

ESGの積極的推進

株式会社 帝国電機製作所

項目	主な取組み内容
E（環境）	・本社工場の太陽光発電パネル増設、社有車のEV・HV化等によるCO_2削減 ・再生エネルギー分野での用途開発強化 ・シールポンプからのリプレース強化 ・ポンプ効率、モータ効率の改善
S（社会）	・従業員満足度向上によるモチベーションアップ ・ダイバーシティーの推進 ・社会貢献活動の推進
G（ガバナンス）	・コンプライアンス徹底 ・品質管理体制の強化 ・経営の効率性を高め株主価値の向上を図る ・リスクマネジメント推進 ・子会社とのコミュニケーション強化

４．環境経営への取組み

株式会社 帝国電機製作所

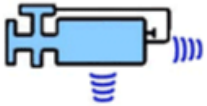
製品自体が環境貢献

株式会社 帝国電機製作所

主力製品であるキャンドモータポンプ

・完全無漏洩であることから、環境負荷が小さい

・運転音が静かであるため、騒音を低減できる



環境に優しい製品の製造・販売で
地球環境悪化防止に貢献

当社ポンプの環境貢献例

株式会社 帝国電機製作所

大気汚染対策

製油所の脱硫装置

大気中に有害物質である硫黄酸化物を放出させないために、製油所では原油に多く含まれた硫黄分を低減する脱硫装置を使用しています。

土壌汚染対策

環境保全型農業製品の製造装置

土壌汚染の防止や安全な農作物の生産を目指す環境保全型農業に適した、肥料や農薬等の農業製品の製造には、高精度な設備が求められます。

有害物質を含む液体が移送されるプラント

液漏れ＝土壌汚染になることから「完全無漏洩」であるこが土壌汚染対策となります。

オゾン層保護

- 温暖化係数の低い安全なCO_2を冷媒とする冷凍装置
- 家電や自動車等から回収されたフロンの分解処理設備
- 空調機器や冷凍機器等で使用する代替フロン製造装置
- 火力発電所の排ガスからCO_2を回収するプラント

テイコクの
TEIKOKU
キャンドモータポンプ

水質汚濁対策

- 工業排水処理用施設で使用される汚水処理装置
- 下水汚泥燃料化設備

海に流出した汚泥を回収し、含まれている炭素成分を取り出し燃料化します。

- 上下水道の浄化システム用オゾン発生装置

再生可能エネルギー

- 下水処理場の下水汚泥ガス化発電システム
- 太陽光発電パネルに使用される多結晶シリコンの製造装置
- 地熱等の熱エネルギーを利用したバイナリー発電装置
- パームヤシ殻を主燃料にした、木質バイオマス専用の発電設備

バイオ燃料

- 市販ガソリンにバイオエタノールを混合するプラント
- LPGやディーゼルの代替となり得るバイオジメチルエーテルの送液設備

その他

EV（電気自動車）関連設備

リチウムイオン電池のセパレータおよびセパレータの原料を製造する設備やリチウムイオン電池における電極の製造装置に採用されています。

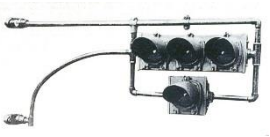
5．参考資料

株式会社 帝国電機製作所

当社概要と沿革

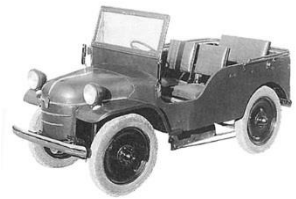
株式会社 帝国電機製作所

当社は完全無漏洩構造のキャンドモータポンプを主力事業として、
約半世紀にわたって事業を展開しています。
世界各地の石油化学プラント、ファインケミカル、医薬・食品業界、原子力発電所、
変電所等様々な分野で活躍し、数多くの実績と信頼を築いています。



1939年
帝国電機製作所
設立

1947年
テイコク製電気
自動車を開発



1958年
A型モータ
を試作

1960年
キャンドモータ
ポンプの開発に
成功

1991年
初の海外拠点
となる
TEIKOKU USA
INC. を設立

1994年
中国に大連帝国
キャンドモータ
ポンプ有限公司
を設立

2003年
TEIKOKU USA
INC.が米国クレ
イン社のケミポ
ンプ事業部を買
収

2006年
東京証券
取引所市
場第一部
に上場

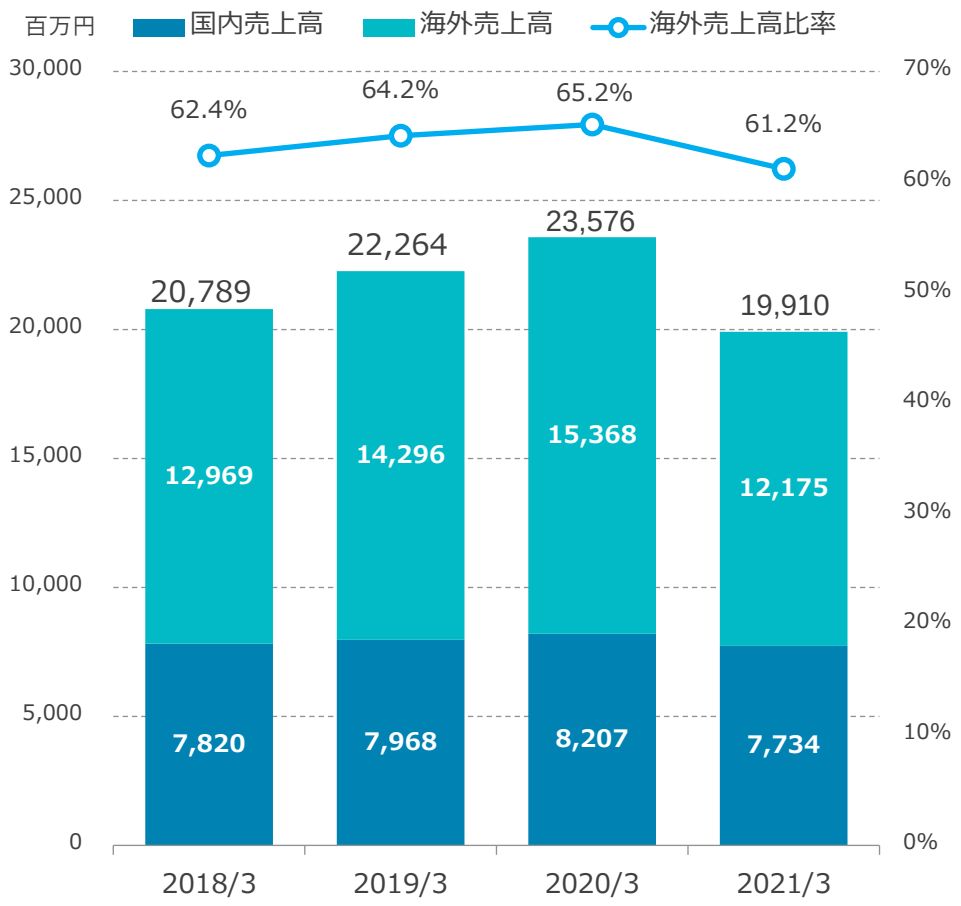
2017年
本社工場
リニューアル

2017年
インドのHYDRODYNE
(INDIA)PVT. LTD. を子会社化
(現・HYDRODYNE
TEIKOKU(INDIA)PVT.LTD.)

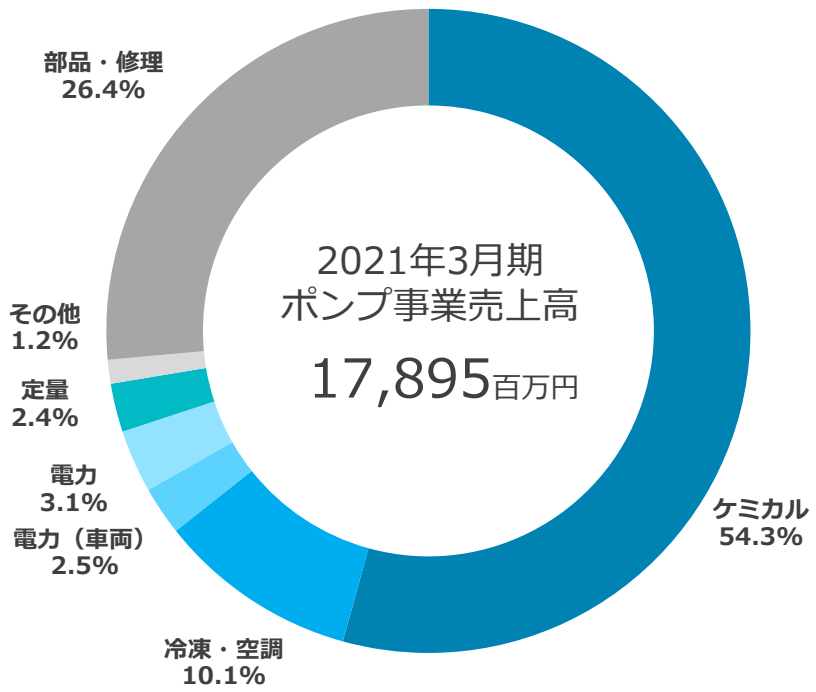
当社の売上構成

株式会社 帝国電機製作所

国内外売上高比率の推移



ポンプ用途別売上比率



- 売上高の約90%は、
  「キャンドモータポンプ」を主軸とする「ポンプ事業」

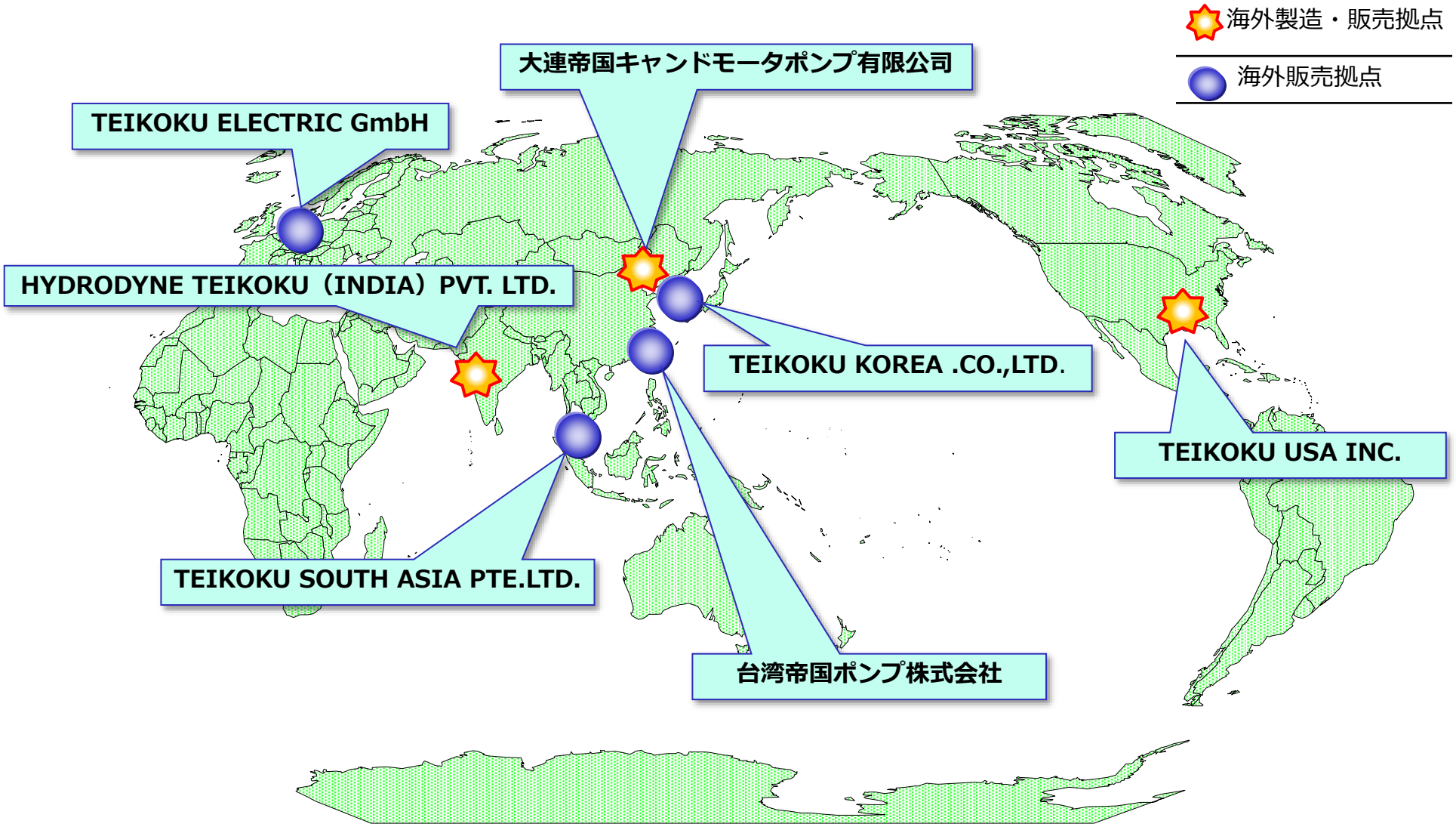
過去業績の推移

株式会社 帝国電機製作所

	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期
売上高（百万円）	19,311	20,789	22,264	23,576	19,910
営業利益（百万円）	1,666	2,300	2,025	3,750	2,262
営業利益率（%）	8.6	11.1	9.1	15.9	11.4
ROE（%）	4.9	6.1	4.1	12.2	8.4
ROA（%）	5.4	7.1	6.6	11.1	7.1
配当性向（%）	26.4	26.8	46.7	22.5	30.5
受注高（百万円）	18,146	21,723	24,893	22,234	19,418
受注残高（百万円）	6,339	7,273	9,843	8,501	8,010

当社の海外展開

株式会社 帝国電機製作所



主力製品

株式会社 帝国電機製作所

キャンドモータポンプ	完全無漏洩という特徴を活かし、石油化学プラント等様々な分野で活躍しています。		**電動油ポンプ**	変圧器冷却用に使用されています。変電施設の他、すべてのJR新幹線に搭載されています。	
	国際規格API685に準拠したキャンドモータポンプ。高温・高圧に対する耐久性にも優れています。		**定量ポンプ**	一定量の液体を正確に移送可能なポンプ。用途範囲が広く、薬品業界等で活躍しています。	
	大型冷凍機・空調機の冷媒の移送においても、当社のキャンドモータポンプが採用されています。		**かくはん機**	各種槽内の液体を効率よく攪拌でき、石油化学業界のほか、食品業界等でも活躍しています。	

キャンドモータポンプの特徴

株式会社 帝国電機製作所

一般的なポンプとキャンドモータポンプの違い

一般的なポンプはポンプとモータを別々に製造し、それをカップリングして使用するため、回転軸を通したケーシングの隙間から、取り扱い液が外部へ漏れてしまいます。
しかし当社のキャンドモータポンプは、ポンプとモータを一体化し、取り扱い液が密閉される構造であるため、完全無漏洩であることが特徴です。

キャンドモータポンプの優れた特徴

1 完全無漏洩

取り扱い液が外部に漏れるおそれがないので、人体に有害な液、爆発や引火しやすい液、高価な液、腐食性のある液などの取り扱いに適しています。

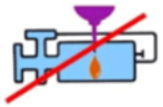
2 外気との接触なし

外気を吸い込まないので、真空系での運転、外気に触れると変質する液などの取り扱いに適しています。

3 幅広い圧力・温度に対応

軸シールがないので、系の圧力が高い、高温液、低温液、高融点液などを取り扱うポンプの製作が容易です。

4 潤滑油いらず

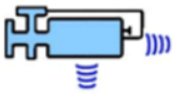


潤滑油を必要としないので、取り扱い液の汚染がなく、給油の手間が不要です。

5 小型軽量で省スペース

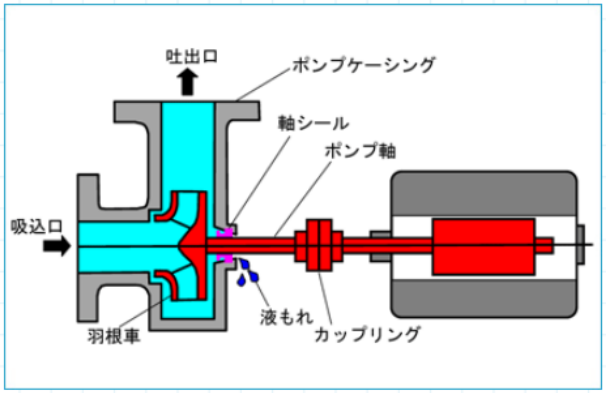
モータ軸がポンプ軸を兼ねているので、小型軽量で設置場所をとらない、分解点検が容易です。

6 静かな運転音



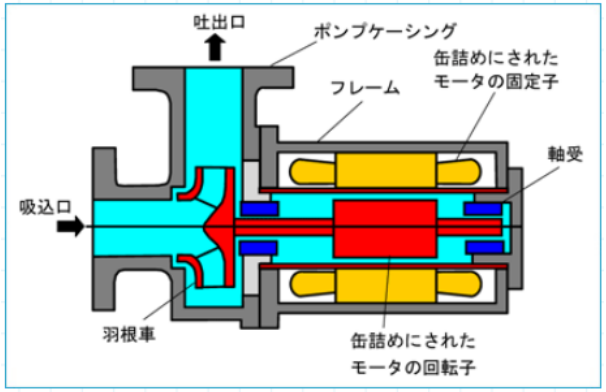
モータを冷却するファンがないので運転音が静かです。

一般的なポンプ



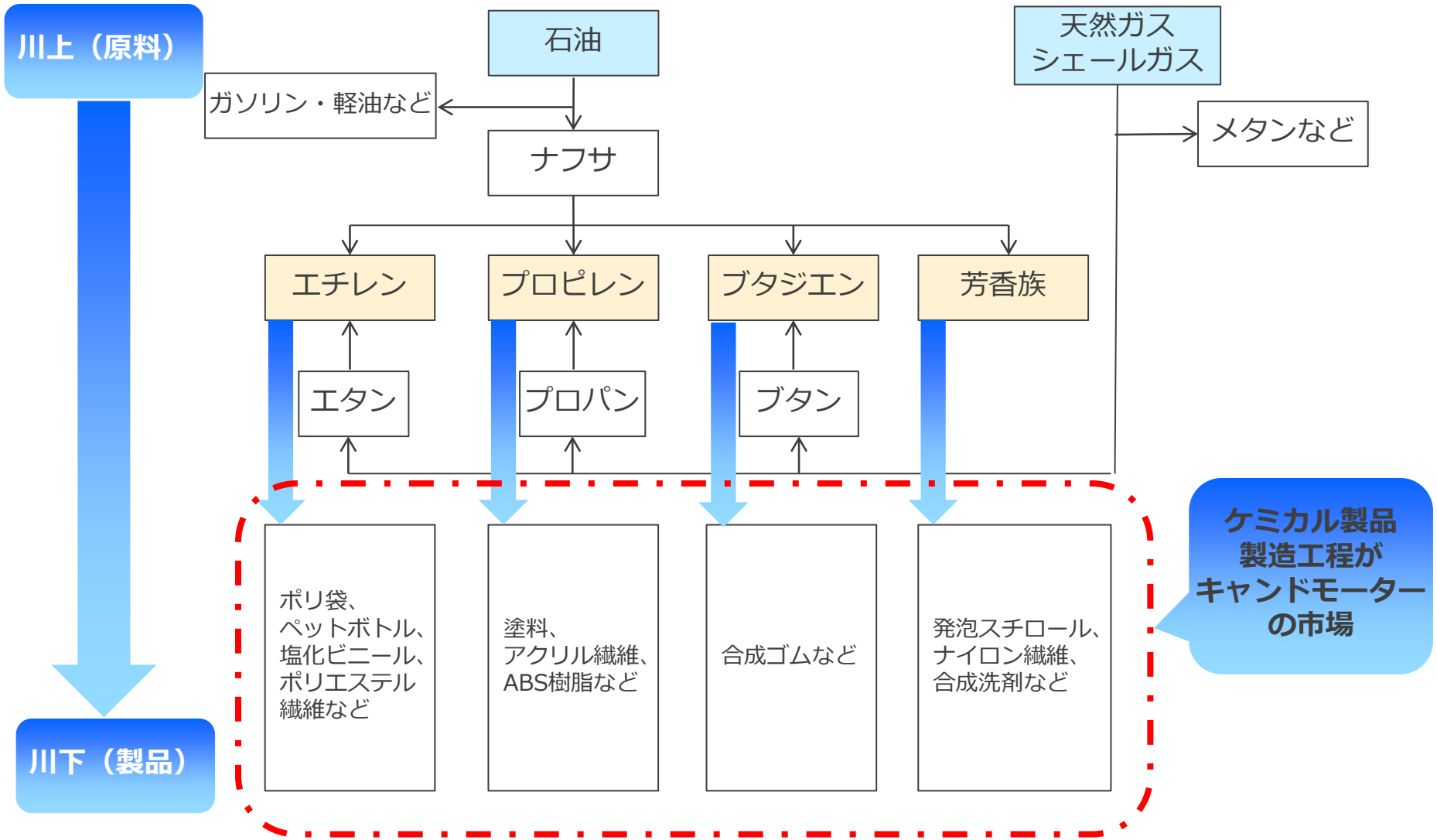
軸シール部から漏洩してしまいます。

キャンドモータポンプ



ポンプとモータを一体化し、密閉された構造であるため漏洩しません。

化学製品の製造工程とターゲット市場



電子部品事業の概要

株式会社 帝国電機製作所

モータジェネレータ基板

電子部品事業

- 100%子会社平福電機製作所の事業
- 電子部品のプリント基板表面への実装作業中心
  （自動車用・二輪車用85%、産業機械用15%）

主力の車載向けに一層注力　（自動車のシステム化・EV化対応）

- 統合ECU（ワイパーや照明等の機能制御機器）
- EPS（電動パワーステアリングシステム）
- SSU（スマートキーレスエントリー）
- モータジェネレータ（車両用発電電動機）
- EV向けモータの回転センサー

産業機械向けの拡充　（省力化投資拡大による需要増）

- シーケンサ（PLC）用電源基板・表示器

株式会社 帝国電機製作所

特集 くらしの中のテイコク

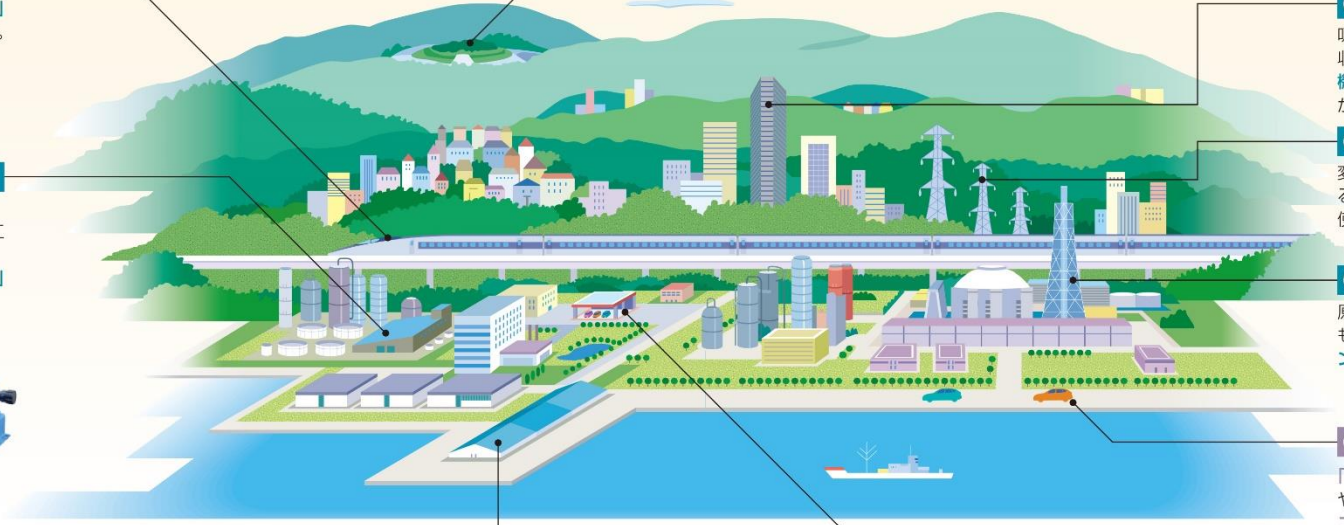
当社の製品は、設備や装置の動力部分に使われているため、一般に目に触れる機会はあまりないと思います。しかし、何気なく利用しているビルや交通機関、また、工場、発電所などにも、当社製品は幅広く活躍しており、快適で便利な暮らしや社会をしっかりと支えています。

新幹線

変圧器冷却用の油を循環させるために「電動油ポンプ」が使われています。

大型放射光施設

大型放射光施設（SPring-8）の加速器施設に「電磁石」が使われています。



ビル・大型施設

吸収式冷暖房機の冷媒液、吸収液の循環に「吸収式冷暖房機用キャンドモータポンプ」が使われています。

変電所

変圧器冷却用の油を循環させるために「電動油ポンプ」が使われています。

工場

石油化学、ファインケミカル、医薬・食品など多様な分野の工場で「キャンドモータポンプ」、「定量ポンプ」、「かくはん機」が使われています。

発電所

原子力発電所や火力発電所にも当社の「キャンドモータポンプ」が使われています。

自動車

「ETCコントロールユニット」や「キーレスコントロールユニット」など、快適なカーライフを支える便利な機能にもテイコクの技術が活きています。

倉庫

工場や倉庫の天井クレーンなどに「ブレーキモータ」が使われています。

オートガススタンド

タクシーなどの燃料として使われるLPGのスタンドにも当社のポンプが活躍しています。

★ポンプ事業　◆電子部品事業　♣その他

免責条項

本資料は当社をご理解いただくために作成されたものであり、当社への投資勧誘を目的としたものではありません。
本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保障を与えるものではありません。
また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。
また、業績等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。
本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。
なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複製、または転送等をおこなわれないようにお願い いたします。

株式会社 帝国電機製作所